

広島国際学院高等学校

同窓会報

【創刊号】

2000年5月1日発行

発行者

広島国際学院
高等学校同窓会

(旧広島電機大学附属高校)
広島県安芸郡海田町
蟹原2-8-1

TEL 082-823-3401

印刷/重本印刷株式会社

TEL 082-823-4466

同窓生の絆を深め 同窓会の発展を目指す!



同窓会長 岡田 民男

ることは大変喜ばしいことではあり
ますが、同窓生にとりまして校名が
変わることは思い出と共に一抹の
寂しさを隠しきれない方々も多々い
らっしゃるのではないかと推察致し
ます。

同窓会を 思い出の場として!

会報が同窓会の
要になることを期待!

卒業後一度も母校を訪ねたことが
なく、機会があれば是非訪ねてみた
いと思っておられる方も多数おられ
るのではないかと思います。『同窓
会』という場を通じ、先生方並びに
先輩、後輩の皆さんとお会いする機
会もありますし、母校の情報も入手
して頂けるチャンスをご利用下さい
ますようお願い申し上げます。

この度、役員会において「同窓会
会報誌」の発刊が決議され、いよいよ
発行の運びとなりました。
これもひとえに役員の皆様を始め同
窓会に寄せられる温かい情熱のあら
われでございます。

学園は申すまでもなく、平成九年
十一月に創立七十周年を迎え、高校
の卒業生は二万八千余人にも達する
多くの方々が同じ学園で学び、実社
会において活躍され、社会への貢献
度は多大なるものがありますことは
誠にすばらしく、また喜ばしいこと
であります。

このような伝統のある学園も平成
十一年より「広島国際学院高等学校」
と名称が変更され、発展の途上にあ

会報の創刊に当って...

理事長 西本 五郎



月日の経過は「光陰矢の如し」の
名言の通り、実に早いものであり創
立者・鶴虎太郎先生によって昭和二
年広島予備校として創立された学園
も、昨年十一月一日をもって創立七
十二年を迎えたところである。

広島予備校として昭和二年にスタ
ートを切った我が学園は、時代の進
展に対応するため逐次内容の充実を
図り、昭和六年には広島高等学校を
併設、更に昭和十一年には乙種の工
業学校(高小卒三年過程)の広島電
気学校を創設して、社会に出て直ち
に役立つ実戦的な素晴らしい電気技
術者の養成機関として、それなりの
使命と責任を果たしてきていたが、
昭和二十年八月の原爆により建物そ
の他は廃墟に帰してしまつた。

敗戦後の大混乱の中よりの学校の
再建は仲々容易な業ではなかつたが
廃虚から再出発!

さて今般新たに会報紙が発刊さ
れましたが、本紙は会員皆様の良き
情報交換の広場として発展的に大い
に広く皆様からのご投稿をお願いす
る次第です。

発刊にあたり関係各位の皆様のご
尽力に敬意を表します。

今後共同窓会発展のため会員皆様
のご協力を重ねお願い申し上げます
と共に、益々のご健勝とご隆盛を心
より祈念申し上げます。

(第六代会長・昭和三十年卒)

旧海軍第十一空廠(現在の海田中学
校)跡地内に残る廃材などを拾い集
め、机・椅子・黒板を生徒と一緒に
作り再出発の場として授業を始め、
その後、元・奥海田村(現在の東海
田)の旧海軍第十一空廠女子寄宿舎
跡地を校地として再々出発したのは
昭和二十年十二月末であつた。

その後電気学校は、学制改革によ
り「広島電機高等学校」に昇格し、
時代の変遷に伴い機械科、電気科、
通信科、計測工業科、女子商業科、
自動車整備科、普通科(男女共学)
等を設置するまでに至つた。

一方、学園は更なる発展策として
昭和三十三年に広島電機学園短期大
学(現在の広島国際学院大学自動車
短期大学部)を、昭和四十二年には
広島電機大学を開学した。
その為従来の校名を「広島電機大学
附属高等学校」へと改めた。

そして平成十一年四月、大学に文
系の「現代社会学部」創設に伴い大
学名を「広島国際学院大学」と改称
するに至り、高等学校の校名も「広
島国際学院高等学校」となつた。

昭和二十一年の初めに僅か六十数
人の生徒で再出発した学校も陸上部
(特に駅伝部)や柔道部、レスリン
グ部、野球部、自転車部、バトミン
トン部、ブラスバンド部などの大活
躍により、その知名度は全国版とな
り、高校を受験する生徒数も年々増
加し、卒業生も約二万八千有余人に
至つている。

(ちなみに大学院、大学、短大の卒
業生を含めると約四万三千四百人)
これらの多くの卒業生は現在、産

業界をはじめ官界、政界、教育界な
ど多方面にわたり有為な人材として
活躍中であり、卒業生皆さんの国家
地域社会への貢献度は実に多大なも
のであり、頼もしい限りである。

学園の教えるもの

過去七十二年の学園の中で約五十
四年という長い年月この学園と関わ
りを持ち、原爆の被災後まつたく無
の中から、創立者と共々学園の再建
に苦難の道程を歩んだものにとつて
は正に「ローマは一日にして成らず」
の箴言が殊の外身に浸みるところ
である。

想うに、悲喜こもごもの人生にお
いて最も素晴らしい人間模様は同じ
学校で共に知性を磨き、共に情操を
培い、共に体を鍛え汗し「友の憂い
に我は泣き、友の喜びに我は舞う」
の如く親友や先生、先輩などとの出
会いがすべてではなからうか。

古い諺に「過去を知らんと欲せば、
現在の果を見よ」とある。
お蔭様で学園の現状は高校より大学
院まで設置するに至り、在籍学生生
徒数も約四千三百人、校地も合わせ
約四十三万㎡(十三万坪)を所有す
るに到つている。

正に隔世の感がある。
しかし、最近の我が学園を取り巻
く環境は、二月に行われた大学、短
大の推薦入試(対前年比約二十%減
)が示す通り実に厳しく、学園に危
機到来を暗示する感がなきにしもあ
らざである。

従つて苦境の時こそ、学園関係者
の更なる一致協力・一致団結と、母
校愛にもとづく同窓生の皆さんの一
層のご協力とご支援を切望するところ
である。

一終りに

乞ひ願わくば今後、定期的に発行
されていくであろう今回創刊の「同
窓会報」が同窓生皆さんの絆を更に
強固にする刊行紙となることを信じ
てやまない。

(元・校長)

母校の教育振興と在校生激励のため 特段のご後援に感謝



広島国際学院高等学校
校長 鶴井 淑弘

同窓会の皆様には平素から母校の教育振興と在校生への激励のため、特段のご後援を賜りまして紙上をお借りし厚くお礼申し上げます。

この度、「同窓会報」が創刊されますことは同窓会の活性化等から意義深いことであり、大変喜ばしいことでもあります。

学校の教育活動には、後援をして頂く団体が、PTA保護者会と同窓会の二つがあります。

特に「同窓会」に関しては、在校生の精神的依存度は大きく無言の感化を受けるものであります。

それだけに、同窓会が会員相互の親睦を図りながら、後輩が学ぶ母校の支援体づくりに「尽力下さることは、教職員一同の心からの願いであります。

幸いにして岡田民男会長の統率のもと、皆様のご努力で一昨年の「創立七十周年記念行事」の成功を皮切りに、物心両面にわたるご支援を頂いておりますことに衷心より感謝申し上げます。

本校も学園の発展を期しリニューアルし、本年四月「広島国際学院高等学校」と改称しました。
学科は普通科を中心に、工業科も総合システム科に改編し、生徒の個性が生かせる内容に改革しました。

また激動する社会に対応し、国際教育にも力を入れております。

本校独自の海外研修、留学制度や英会話教育、姉妹校縁組など国際教育を進める教育環境を充実させています。

進学状況も、特別大学進学コース(Aコース)はクラスの三分の一が広島大学などの国立大学に進学するなどの実績を上げております。

そしてクラブ活動も活発です。スポーツでは自転車、レスリング、ボクシング、女子柔道、バトミントンなどが毎年のように中国大会やインターハイに出場します。

特に自転車やレスリングは全国大会で優勝・入賞をしており、全国レベルでの活躍です。

一方、文科系でも吹奏楽がここ数年県代表として中国大会で金賞を受賞しています。また理科クラブでは「カエル(蛙)の研究」で広島県教育長賞・準特選を受賞しています。

今後、文化とスポーツを両立させ、調和の取れた個性を育て、明るく活気のある学園づくりを進めてまいります。

本校も創立七十三周年目を迎え長い歴史を刻んでいます。
母校のため何を築いてきたか、また母校で学ぶ後輩達はどうな遺産を残さなければならぬか、本校に縁をもつ全ての人達がじっくりと考えてみなければならぬと思います。

校舎新設などの遺産は、老巧と改修を繰り返して行くものであります。が、真の遺産とは、
本校で学ぶ者一人ひとりが校舎の全てに沁み込ませてきた「たくましい真摯な生きざま」だと思います。
母校は「心のふるさと」であり、自分を大切にすることに繋がるものでなければなりません。
同窓会の一層の発展を祈念しております。

『同窓会報』の 発行に寄せて

前同窓会長 永山 薮



まず同窓会報の発刊まことにめでとうございます。

時あたかも世紀末に当たり、二十世紀に向けて記念すべき事としてご同慶の至りに存じます。

発刊に向けてご担当の方々には大変ご苦労を掛けますが、「同窓会」の将来にとって意義深いこととしては非成功しませう折念致します。
私は先の大戦後間もなく専門学校生としてお世話になった一人ですが、二年間の在学後、社会人を二年余り

創立70周年記念写真集発売中

(平成9年12月発売)

★創立以来の学園ニュースを写真で綴り
なつかしい友とこの写真誌で再会!!!
頒布価格 ¥5,000円(送料込み)
¥4,000円(本部渡し)
お申込みは同窓会本部 Tel.082-823-3401へ

経験したのち、ご縁があつて本校職員として十年余り在職致しました。
電高・全国高校駅伝

第二位の快挙

その間クラブ活動の顧問として陸上競技部を担当しましたが、生徒諸君の努力もあつて昭和三十三年二月開催の、全国高校駅伝に広島県代表として晴れの舞台に立つことができました。

結果は真に幸運ながら初出場で全国第二位の栄冠を勝ち得ることができました。

幾多の苦難を乗り越えてきただけに当時の卒業生、学校関係者は諸手を挙げて喜びに酔ったことは今もって忘れられない思い出として脳裏に残っています。

発行継続を期待!

さて学校の歴史を知る私には、卒業生、学校関係者がこの度発行の「会報」を通じて皆さんが一体となつて交流できるようになることがどんなに素晴らしいことか、今から楽しみにしている所です。

会報の作成手法には色々あることですが、人には得手不得手があり、書くことより話すことが得意という人や又その逆もあります。
普通、刊行紙の場合原稿が集まりにくくて困ることがあると聞いておりますが、座談会や交流会、クラス会などに向いて集めたり、参加者が会の様子を積極的に知らせる上げたりすることが「会報」を永続させる手段の一つではないでしょうか。又、できるだけ身近な記事を書くことが同窓生に、見て喜んで頂ける要因だと思います。そして多くの卒業生が全国で活躍しています。
彼等は「母校を心のふるさと」として見えています。

校名は何度か変更になり、当時の思い出と合わせ一抹の寂しさはありますが、時代の変化には「発展的改称」と受け止め、従がわざるを得なかつたことは誠に無念の極みです。
それから私は十五年余り皆さんのご協力を頂きながら同窓会長として会のお世話をさせて頂きました。

その間に「同窓会運営基金」づくりと「支部結成」の推進を主力に取り組んできましたが、各位のご努力により着実に成果を上げて来て頂きました。

そして今、この時期に「同窓会会報」が発行されることで一段と会の結束が強くなつていくことを確信しています。

また、発行継続に当たっては諸問題も多々あることと思ひますが、それらは同窓生、学校関係者、役員の方々の英知を結集して臨まれば、良い結果も生まれることと信じています。

最後に会報発行に当たり祝意を表すると共に、同窓生各位のご健勝、ご多幸と「広島国際学院高校同窓会」の益々の発展をご祈念申し上げます。
(元・教諭、庄原市板橋町在住)

わたしの電高



大野 允子

広島市内から東方の海田を眺めています。

「電高は遠くになり」

「あなた、海田のあの電機高校の先生なの？」「知人によく聞かれたものです。」

「それがどうした、もんくある？」
「なあって、今なら言い返せるけれど、遠くになりけりけりの昔、私は若かった。」

新米教師だった私の二十代も、生徒という名の生意気盛りの彼等も、みんな薫風にぼやけて、懐かしいこと。

「我が青春、電高と共にあり」
あつ！調子よすぎたな……

ふいに突き上げてくるにがいのもの：飲み込んだところ、やっぱりいろいろありましたからねえ。

十年余、私にとっては一番長い学校暮らしなのです。

校名がどうなるうとも、電高は電高、思い出多い教師の日々でした。

時折、担任だったクラスの彼等には逢います。

「まあ、ただが増えて、あとは、まるで変わらぬ私の私にはいうこと無し。」

「ほやほやの祖父ちゃんぶりを笑い、扱い難い部下のこと、妻を亡くしたことは、息子は京大生だとか、あいつは次の町長選をねらっているとか、定年後の計画や不景気の話し、などなど聞けばかり。」

もうすぐ、同窓会報が誕生すること、おめでどう！

どんな会報が生まれるか、楽しみ。いつかは合えないままの彼等にもきつと、紙面で再会できるようにね。

広島国際学院高等学校

新校歌

作詞 荻野次夫
作曲 永井主憲

一、風光る

瀬野川の せせらぎ清く
若さみなぎる 愛の学舎

熱き心は 未来を見つめ
真理を探る 情熱は一つ

我が学園は ここにあり

二、潮香る

瀬戸の海 遙かに望み
絆 深める 我らが仲間

燃える心は 世界を見つめ
平和を誓う 願いは一つ

我が学園は ここにあり

※ 作詞の荻野さんは母校教諭
作曲の永井さんは作曲家

ご苦労さま、編集委員殿！
すべては、まず始めなければ始まりません。

力を寄せ合って続けてください。
(元教諭・広島市安佐南区在住)

本部事務局通信

母校の現状について

事務局長 下田 穆昭

母校は、創立以来工業高校として長い伝統を誇ってきました。

最近では普通科からの大学進学という志向が進むなか、母校においても普通科への入学希望者が増加する一方、工業科への希望者は減少傾向にあります。

学園の長期的展望計画でも、普通科を中心とした方針が打ち出され、工業科が改編されました。

従って教育内容も大きく見直され基礎、基本を重視したものになりました。

その方針のなか、自動車整備科が平成十年に、電気科、機械科が平成十一年に廃止されました。

工業科は新しく平成九年四月より総合システム科に改編され、男女共学で再スタート致しました。

この改編による総合システム科の初めての卒業生が、本年三月に同窓生会員として入会致しました。

また、母校は平成十一年四月より校名を「広島国際学院高等学校」と変更しました。

これは広島国際学院大学に現代社会学部が開設された事によるもので、総合大学への再出発を図るための措置でしたが、我々同窓生にとつて、「広島電機高校」という呼称が消滅する事に一抹の寂しさを感じる出来事でした。

全国高校野球県予選

ベスト4進出の活躍

昨年の夏、広島県高校野球大会での硬式野球部のベスト4進出という大活躍は、母校の校名変更を大いにPRし、そのお陰で変更を知ったという同窓生は数多くおられたと聞いております。

現在母校の科別クラス数をご紹介しますと、普通科25クラス、総合システム科13クラスで、全校生徒数は1502名の規模になっており、その内女子生徒が366名在学しております。

十数年前迄の卒業生OBにとつては想像し難い母校の感があることと思っております。

去る三月一日には359名の卒業生が巣立つて行き、一方、四月八日には524名の新入生を迎える事ができました。

現在小字化の傾向が進むなか、県内の私学は厳しい冬の時期を迎えております。

母校教職員の方々は「教育は愛なり」の教育理念のもと、身を呈しての教育に取り組み実践された事により、本年度の入学試験受験者数は2000名を越え、その数は県内トップを占めております。

校舎も三十数年前鉄筋コンクリート建てになり、昨年の夏休み主に工業科の校舎等が改装され、今までより明るくイメージを一新したものに変わりました。

また、母校には色々なイベントがありますが、全校挙げての体育祭や文化祭開催の機会に合わせ、是非一度訪ねて頂き、変わりつつある学舎、母校を体感して頂きたいと念じております。

(現教諭 昭和三十四年機械科卒)

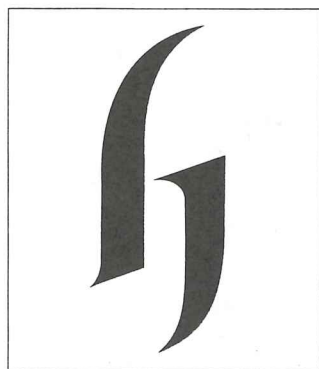
有名・著名人紹介 ※ 洩れがありましたら事務局へご連絡下さい。

氏名	卒業年・科別	現役職名・名称	備考
岩田 寿	S29.高等学校	市議会議員	東広島市議会
倉本 忠宏	S38.電気科	市議会議員	広島市議会
采谷 義秋	S38.機械科	県立海田高校教諭	ミハバシリピカマリンランナー
上田 広	S39.電気科	市議会議員	東広島市議会
木村 芳郎	S40.工業計測科	陶芸家	
事崎 正司	S42.電気科	歌手【嘉納ひろし】	東芝EMIレコード専属
矢沢 永吉	S43.工業計測科	ポップ歌手	
大本 弘之	S49.機械科	市議会議員	呉市議会
山田 恵一	S58.機械科	プロレスラー【獣神サンダーライガー】	



プロレスラー 獣神サンダーライガー (本名・山田恵一)

母校のシンボルマークとスクールカラー



広島国際学院高校の「シンボルマーク」は hirosima の頭文字「h」をシンブルな曲線でデザインしたものです。

張りのある二つの円弧が上下に向って鋭く伸び、学生の躍動と活発な成長を表わしています。無駄のない形とシャープな先端は、聡明で現代的なイメージを持ち、未来に向って飛躍する斬新なデザインです。

スクールカラーを

ブルーに！

ブルーの色には、新鮮さや斬新なイメージがあり、学生達の若々しく健やかな姿を感じさせ、未来に向っての発展や飛躍をも表現する事ができます。

更に色調として誠実さや安定感をもっているためあきがなく、いつまでも愛され、時間を重ねても古くならず、いつの時代にも堅実で清潔な感じを与えます。

このマークの制作者は、1998年冬期長野オリンピックのシンボルマークをデザインされ、大手企業のシンボルマークも多数製作実績のある前途有望な若手デザイナー「篠塚正典」氏が製作されたものです。

【地域支部】

支部名	代表者	郵便番号	住所	電話番号
坂支部	大本幹夫	731-4300	安芸郡坂町2651	082-885-2662
安浦支部	青垣内 雄荘	732-0054	広島市東区愛宕町7-19 タインボーション	082-264-1500
安佐支部	川口勝明	731-3351	広島市安佐北区安佐町毛木 1032	082-837-1139
山口県支部	広瀬恒顕	744-0062	下松市昭通通り2921-5	0833-43-6045
熊野支部	桐木一彦	731-4213	安芸郡熊野町萩原6046-1	082-854-0268

【職域支部】

職域名	代表者	郵便番号	住所	電話番号
市消防局	野村 忍	739-0314	広島市安芸区瀬野南1-15-8	082-894-0483

【クラブOB会】

クラブ名	代表者	郵便番号	住所	電話番号
自動車	徳野 誠	731-4229	安芸郡熊野町平谷617-9	082-854-5922
硬式野球	三木節雄	732-0821	広島市大須賀町10-5	082-261-7545
卓球	益田道弘	739-0321	広島市安芸区中野3-34-18	082-893-2039
山岳	京才 昭	735-0027	安芸郡府中町千代1-11 ピアンカ府中306	082-285-3608



広島国際学院高校玄関風景

坂支部も本年設立十周年を迎え、総会で使用する『広島国際学院高校同窓会・坂支部』の横断幕も作り替え、飛躍の年にしようとして役員一同、一致団結し燃えているところだ。(昭和二十九年卒・安芸郡坂町在住)

坂支部の紹介

― 結成十周年を迎えて ―

幹事長 花房勝彦

坂支部の現況を報告致します。坂支部は平成二年より設立準備を始め、会員百九十名、役員・幹事二十名の名簿を作成し、平成三年八月に設立総会を本校西本理事長、鶴素直校長、永山前同窓会長、本部役員他多数のご来賓をお迎えし盛大に開催致しました。

懇親会は幹事夫人の手料理。会費などは、できるだけ会員に参加して頂きやすいようにならるべく低く

押さえて、懇親会の料理も担当幹事の奥様に愛情のこもった手料理をお願いし、会場も地区の集会所を利用したりし、和気藹々と行っておりま

活動としては、母校や同窓会などの諸行事を支援したり又、後輩の在校生がクラブ活動等で全国大会に出場したりした場合の後方支援、そして会員相互の親睦ゴルフコンペを春と秋の二回開催しています。現在当支部の問題点としては、総会や集いでの参加者の顔ぶれがあまり変らないことと、特に若年層の参加者が少ないのは今後の大きな課題です。他の支部も同様の問題を抱えておられるのではないかとありますが、もう少し「みんなの同窓会」に対し興味を持ってほしいと願っている所です。

母校に帰り
― 新米講師 ―
氏川尚子

私が、母校広島電機大学附属高校を卒業したのは平成八年早いもので四年の歳月が経ちました。その母校も今では「広島国際学院高等学校」と校名が変わり、新しい科目ができたり、女子生徒が増えたり、学校全体の雰囲気も私達がついてきた頃とは随分違ってきているようです。

校舎もきれいに塗り替えられ、制服も新しくなつて、今ではあの紺のブレザーに灰色のスカーフ、ピンで止めるネクタイ姿を見る事はできません。考えてみれば、あの制服を着たのは私達の学年が最後でした。今でもあの引出しに残してあります。さて、なぜ私がこのように母校の事に詳しいかといいますと、それはズバリ本校に勤務しているからなのです。

私は小学校の頃から学校の先生になることが夢で、母校を卒業し大学で数学の教員免許を取得し、この春から数学科の講師として戻ってきたわけでありませぬ。

まだ講師生活は始めて一ヶ月しか経っていませんが、周りの先生方はとても優しく、そして生徒達も素直でよく勉強してくれまますので毎日がとても楽しみです。

しかし私はまだまだ未熟で勉強不足、諸先生方や周りの人に迷惑を掛けてしまう事もあり、私が高校時代バスケット部に所属していた時に顧問をされていた先生が退職され、今は私がバスケット部を担当していますが、せめて自分のできることは率先して精一杯やろうと日々努力しているところです。

指導する― というような大袈裟な事は私にはできませんが、部員一同と一緒に頑張って練習に励みながら、今月末に行われる「地区総体」に向けて頑張っているところです。一日一日が、授業、教材研究、クラブ活動などと忙しく慌ただしく過ぎていきます。毎日が大変な仕事ですが、自分が選んだ、そしてやり甲斐のある仕事なので今の生活はとても充実しています。(非常勤講師 平成八年普通科卒)

母校創立七十周年 記念式典開催!

題記の記念式典が、平成九年十一月二日母校体育館で多数の来賓を迎え開催されました。式典の後、元オリンピッククラウンナ―・采谷氏の記念講演会、母校吹奏楽部の演奏会、そして広島国際ホテルでの祝賀会に続き、同窓生の歌手「嘉納ひろし」氏の歌謡ショー等が盛大に行われました。(写真は祝賀会の模様)



― 編集を終えて ―

― 更に母校への関心を! ―

幹事長 杉原弘皓

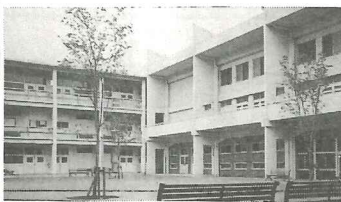
まず原稿をお寄せ頂いた方々に陳謝を申し上げます。当初は昨年末の発行を予定していましたが、諸事情により遅くなりご迷惑をお掛けし深くお詫び申し上げます。

母校の同窓会情報紙である「会報」の発刊は遅きに失した感があります。が、これからは会員の『絆』となるよう定期的に発行していきたいと願っていますので、関係各位のご高配とご協力を切にお願い致します。

我々は歴史ある母校と共に学び、青春を育んで来た仲間として同窓生同志の親愛を深めながら、これから巣立っていく後輩のためにも、その受け皿である同窓会を揺るぎない確固たるものにしていく義務があります。

坂支部・花房幹事長の記事にもありましたように― 支部を活性化させ多くの会員が支部に集え― おのずと会員同志の結束は固くなり、それが全体に広がって行き、強いては同窓会の繁栄に繋がっていくものだと思います。

次号よりページ数も増やして、より多くの情報を提供できるよう努力する覚悟ですので、重ねて関係各位のご協力をよろしく、お願い申し上げます。(昭和三十四年・電気科卒)



広島国際学院高校校内風景

